

4 マータイさんのグリーンベルト運動



●7本の植林からはじまったグリーンベルト運動

2004年、ケニア人女性のワンガリ・マータイさんが、環境や人権に対する長年の貢献が認められて、アフリカの女性としても環境分野でも、はじめてノーベル平和賞を受賞しました。ケニアの独裁政権下で公然と政権を批判し、逮捕や投獄をされてもケニアの森林再生と女性の地位の向上、民主化のために精力的に活動しました。

大企業のプランテーションなどで大規模に伐採され、森林は国土面積の17%と激減しました。マータイさんは外国企業の木材生産に使われるユーカリなどの外来種を植林するのではなく、アフリカにもともとあった在来種の樹木を植える「グリーンベルト運動」を1977年に7本の植林からはじめました。

●女性の社会参加によって支えられた森の再生

この運動にケニアの貧困に苦しんでいる女性たちを参加させ、森林破壊による砂漠化を防止するための植林をしました。

彼女たちに資金、技術、教育、家族計画の知識を提供し、女性たちが何のために生きているかをみずから考えるきっかけをつくり、活動を通して「生きる力」を与えたのです。政府の弾圧をうけながらも運動は広がり、延べ10万人が参加し、4000万本以上の木が植えられました。「まき集めの労働から解放された」「木が根づいたときに支払われるお金を、子どもの学費や生活の足しにできるように



▲子どもたちと育苗作業をするマータイさん 写真提供:毎日新聞社

った」「昔の森を取り戻して、在来の植物・昆虫・動物たちが戻った」という声がよせられています。女性の社会参加と生態系保護が大きく前進したのです。

植林は在来種が根づいたとき、1本あたり日本円で約5円支払われ、外来種には支払われません。在来種の本が根づくとき、在来の昆虫も集まり、それを餌にする小動物がやってきます。こうしてケニア本来の森林が再生されはじめました。

●日本に学ぶ「もったいない」の意義

2005年にマータイさんは日本を訪れ、「もったいない」という日本語に感動し、環境を守る世界共通語として「MOTTAINAI」を世界に広める活動をしています。この言葉には環境用語の3R（リデュース=ゴミの削減、リユース=再利用、リサイクル=再利用）とかけがえのない地球資源に対するリスペクト（尊重する）という考えがこめられています。

獣医学で博士号をとったマータイさんは動物や森といった命あるものを尊ぶことの大切さを訴え、地球資源に負担をかけない持続可

能で循環型の社会を実現する活動を現在も続けています。

マータイさんはいいます。「グリーンベルト運動によって、環境を救うための行動をおこすだけでなく、政府を変えていくという市民としての責任も実践しました。木を植えれば、土地が荒れることも防げます。育った木を売って現金を得ることもできます。まきも採れます。木は数年で大きくなり、美しい川も流れるようになりました。川には魚が泳ぎ、鳥や小さな動物も戻りました。人間の暮らしはそれを取りまく生態系に依存しています」

マータイさんが「もったいない」という言葉に感動したのは、すべてのものに対して、いつくしみや感謝の念をもって接してきた日本古来の価値観がその言葉にこめられていたからです。そしてその言葉は、木を植えることと強く関係していると思ったからです。グリーンベルト運動によって自然と人の命のつながりを認め、それらをつくしむこと、感謝することは「もったいない」と思うことが大切だとマータイさんは訴えたのです。



■プロフィール

ワンガリ・マータイ
1940年、ケニア生まれ。グリーンベルト運動創設者。ケニア共和国元環境・天然資源省副大臣。生物学博士。MOTTAINAIキャンペーン提唱者。国連平和大使、旭日大章章受章者。

